第２　教育研究団体の意見・評価

○　全国歴史教育研究協議会

（代表者　南　和男　　会員数　約16,200人）
ＴＥＬ　0422-51-4554

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」とする）が２年目を迎えた。昨年度は新テストということで，手探りの中での作問であったと思われるが，昨年度の経験を踏まえつつ大学入学共通テスト問題作成方針をより反映する作問がなされたものと推察する。本稿では，高等学校において授業を行う立場から，１の「はじめに」では本試験「世界史Ａ」と「世界史Ｂ」の全般的な概略について，２の「試験問題の程度・設問数・配点・形式等」では問題の内容・程度・設問数・配点・形式などの科目別の意見や要望について，３の「総評・まとめ」では総括的な評価，４の「まとめ」では全体的な要望について述べる。

１　は　じ　め　に

今年度の共通テストの分析を終えてみて，昨年同様問題の内容やレベルともに教科書に準拠しており，日常の授業で対応できる内容になっており，共通テストとして極めて妥当であると考える。出題形式に関しても，設問文だけで答えが導き出せる「基礎的な知識及び技能」に偏った出題を脱却しようという試みが見られることに敬意を表したい。

「思考力・判断力・表現その他の能力」を問う出題は，それ自体では難しいかもしれない。一方で，高等学校学習指導要領（以下［学習指導要領］という。）の地理歴史科の目標は，「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生きる民主的，平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。」とあり，「世界史Ａ」の目標は，「近現代史を中心とする世界の歴史を，我が国の歴史と関連付けながら理解させ，人類の課題を多角的に考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」とある。また，「世界史Ｂ」は，「世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」とある。

今回の出題方針にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解に基づいて，例えば，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題，仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題や，歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」という視点が，実際の作問においてどのように反映されているかということについて，大いに期待するところであり，リード文やそれに付属する図表を精読することでしか解けない出題が今後増えていくことによって，知識・理解だけでなく資料活用能力を見る設問も増加し，単なる暗記物に終わらない高校世界史の本格的な授業が高校の現場で実現できることを期待している私たちから，共通テストが大学入試問題の一方の頂点に立つべく，更なる御検討をお願いする次第である。

以下，今年度の「世界史Ａ」と「世界史Ｂ」の共通テスト問題について，限られた紙面の中では

あるが，今後の御検討の一助になることを期待して，本協議会の意見と評価を記す。

2　試験問題の程度・設問数・配点・形式等

⑴　「世界史Ａ」について

大問が昨年と同じく５問で，それぞれ学習指導要領を反映したテーマ設定がなされている。大問１・５は三つ，大問２～４は二つの小問に分かれており小問構成が微妙に変化し，設問数も例年より２問減り全部で31問となったため，配点は順に27点，16点，16点，16点，25点と変更された。また，「世界史Ｂ」との共通問題はなかった。

出題を正解の選択肢を基に判断すると（以下同じ），年代別に見ると，古代が２問，中世が２問，中世・近世が２問，中世・現代が２問，近世が４問，近代が８問，現代が11問である。第二次世界大戦後に起こった事項に関連した問題は７問あった。昨年と比べるとやや現代からの出題が減りその分中世からが増えたが，ほぼ同様の出題傾向である。また，21世紀以降の事項からの出題は無かった。

地域別にみると，東アジアが10問，東南アジアが２問，西アジアが１問，中央アジアが１問，ヨーロッパが12問，北アメリカが１問，複数の地域にまたがるものが４問であった。ヨーロッパに関わる出題が昨年よりも減少し，その分東アジアが増加した。昨年に引き続きアフリカに関わる出題がなく，オセアニアや南アメリカなど従来出題頻度の低かった地域からの出題も無かったため，バランスに欠く配分であった。例年見られた日本史との関連問題については，本年は出題されなかった。

出題形式でみると，肢文のなかから正文または誤文を選ぶものが12問（うち誤文を選ぶものが３問），空欄補充を選ぶものが２問，空欄補充の組み合わせを選ぶものが２問，空欄補充と関連事項の組み合わせを選ぶものが９問，年表から時期を選ぶものが１問，二文の正誤の組み合わせを選ぶものが１問，地図問題が１問，史料やグラフ等からの読み取り問題が３問であった。例年はリード文が問題と関連せず，基本的な知識をもとに正誤文を選ぶ問題が大半であったが，本年はそれが例年に比べてほぼ半減した。正誤文選択にかわって増加したのが空欄補充と関連事項の組み合わせを選ぶ問題である。いずれもリード文やそれに関連した資料を十分に読み取って当時の状況を思考・判断する必要がある問題であった。思考力や資料活用の力を問う工夫がよくなされていたと考える。なお，例年出題されていた年代整序や，写真や絵画そのものを問う問題は出題されなかった。

第１問　社会に対する訴えの手段としての図像について，主に近現代の政治的動向に関する問題

Ａは，ジャンヌ=ダルクのポスターに関する文章からの出題。

問１　第二次世界大戦と百年戦争時のフランスに関する空欄補充の組み合わせ問題。教科書によってはヴィシー政府またはレジスタンスのどちらかのみ触れているが消去法で解くことができ，基本的な知識を問う問題であると言える。この問題のようにリード文を十分に読むことが求められている問題が多く出題された。

問２　ポスターの意図を問う正文選択問題。昨年に引き続き，前提となる知識を必要としない思考力を問う問題が出題された。リード文の読み取りとそれに基づく思考を問うており，高校での学習を踏まえつつ特定の教科書に依ることのない問題であり，教科書の内容にばらつきのある「世界史Ａ」に適切な問題である。

Ｂは，清末に作成された風刺画「時局図」に関する文章からの出題。

問３　日英同盟の背景を問う空欄補充問題。リード文中には日英同盟そのものが出てこな

いため文脈から推測する思考を問うており，高校での学習を踏まえつつ特定の教科書に依ることのない問題であり，「世界史Ａ」に適切な問題である。

問４　ジョン=ヘイの門戸開放宣言を問う空欄補充問題。こちらもジョン=ヘイや門戸開放宣言の文字はないため文脈から判断する必要がある。基本的な知識とそれに基づく思考を問うており，高校での学習を踏まえつつ特定の教科書に依ることのない問題であり，「世界史Ａ」に適切な問題である。

問５　風刺画の作者の主張を問う資料読み取り問題。基本的な知識とそれに基づく思考を問うており，高校での学習を踏まえつつ特定の教科書に依ることのない問題であり，「世界史Ａ」に適切な問題である。

Ｃは，19世紀ドイツの「黄禍論」を訴えた寓意画に関する文章からの出題。

問６　ヴィルヘルム２世が行った政策に関する正文選択問題。教科書によっては正答の世界政策について記載の無いものあるため消去法でも絞り切れず，不適切と思われる。出題に際して十分な配慮をしていただきたい。

問７　寓意画に書かれた人物と寓意画の意図を問う空欄補充と関連事項の組み合わせ問題。リード文から三国干渉を読み取り問われている国名を推測したうえで，ドイツの目的を考察することが求められている。基本的な知識や資料読み取りとそれに基づく思考を問うており，高校での学習を踏まえつつ特定の教科書に依ることのない問題であり「世界史Ａ」に適切な問題である。

問８　扶清滅洋を唱えた義和団を答える正文選択問題。基本的な知識を問う問題である。

第２問　大航海時代・ローマ法の歴史を扱った授業をもとに，主に前近代のヨーロッパに関する問題

Ａは，大航海時代についての会話文からの出題。

問１　ヴァスコ=ダ=ガマに関する空欄補充と資料読み取り問題。基本的な知識とリード文の読み取りを組み合わせた問題である。

問２　ポルトガルの活動や香辛料に関する誤文選択問題。教科書によってはビルマではなくミャンマーのみ記載しているものがあるが，消去法で答えることができるため基本的な知識を問う問題であると言える。

Ｂは，ローマ法の歴史についての会話文からの出題。

問３　ユスティニアヌス帝に関する空欄補充と資料読み取り問題。基本的な知識とリード文の読み取りを組み合わせた問題である。

問４　18世紀にひろがった啓蒙思想を答える正文選択問題。基本的な知識を問う問題である。

問５　アムステルダムと東方貿易についての二文の正誤組み合わせ判定問題。基本的な知識を問う問題である。

第３問　世界史上の帝国とそれを取り巻く情勢について，主に明清代の中国や中世ヨーロッパに関する問題

Ａは，明末～清初を生きた黄宗羲に関する資料からの出題。

問１　リード文から南京を類推させその位置を問う地図問題。基本的な知識と空間的な把握を組み合わせた問題である。リード文中に江南地域と記載されているため選択肢が一択になってしまうことが悔やまれる。

問２　李自成の乱を答える正文選択問題。教科書によっては「農民反乱」とだけ記載されて個人名の記載のないものもあるが消去法で解くことができ，基本的な知識を問う問題

であると言える。

問３　明にとって北京の位置づけや清の興りに関する空欄補充の組み合わせ問題。基本的な知識や資料読み取りや空間的な把握とそれに基づく思考を問うており，高校での学習を踏まえつつ特定の教科書に依ることのない問題であり，「世界史Ａ」に適切な問題である。

Ｂは，ビザンツ帝国の皇女アンナ=コムネナに関する資料からの出題。

問４　スキタイの正しい説明を選ぶ空欄補充問題。スキタイそのものを記述していない教科書もあり消去法でも絞り切れず，不適切と思われる。出題に際して十分な配慮をしていただきたい。

問５　フランク人がもたらした出来事（十字軍）とそれに関する空欄補充と関連事項の組み合わせ問題。フランク人と十字軍を結びつけづらいかもしれないが，基本的な知識とリード文の読み取りを組み合わせた問題である。

第４問　人の移動の歴史について，主に近代欧米世界と現代東アジア史に関する問題

Ａは，19世紀中頃から20世紀初めにかけての移民数に関する統計から出題。

問１　19世紀に起こっていないパナマ運河開通を選ぶ誤文選択問題。基本的な知識を問う問題である。

問２　統計から導き出せる仮説中の空欄補充の組み合わせ問題。基本的な資料読み取りを問う問題で，「世界史Ａ」に適切な問題である。

Ｂは，中国における都市・農村人口の割合を表したグラフから出題。

問３　大躍進政策と文化大革命が起こった時期に関する空欄補充の組み合わせ問題。大躍進について触れていない教科書もあるが消去法で答えることができ，基本的な知識を問う問題であると言える。

問４　1930年代の国民政府の移動とその理由を問う正文選択問題。基本的な知識を問う問題である。

問５　ヒジュラの知識が求められる誤文選択問題。基本的な知識を問う問題である。

第５問　世界史上における独裁体制に対する民衆の動きについて主に近代欧米世界と現代東アジア史に関する問題

Ａは，スペインの独裁者フランコの遺体移転に関するリード文からの出題

問１　スペインのフランコとリード文の内容を問う空欄補充と資料読み取り問題。基本的な知識とリード文の読み取りを組み合わせた「世界史Ａ」に適切な問題である。

問２　スペイン内戦時のイタリアが行った対外政策を問う正文選択問題。基本的な知識を問う問題である。

問３　第三勢力の形成を問う正文選択問題。基本的な知識を問う問題である。

Ｂは，光州事件時に大学生が出した声明文に関するリード文からの出題

問４　朴正熙と金大中とリード文の内容を問う空欄補充と資料読み取り問題。朴正熙と金大中に関する記述のない教科書もあるため消去法でも絞り切れず，不適切と思われる。出題に際して十分な配慮をしていただきたい。

問５　ワレサが率いる連帯を答える正文選択問題。単純な知識が求められており，基本的な知識を問う問題である。

Ｃはプラハの春に関する写真と会話文からの出題

問６　ベルリンの壁崩壊の時期を年表から選ぶ問題。基本的な知識を問う問題である。

問７　1980年代の改革政策とそれを行った指導者を問う正文選択問題。ペレストロイカと

新経済政策（ネップ）の両方とも記述されていない教科書もあり消去法でも絞り切れず，不適切と思われる。出題に際して十分な配慮をしていただきたい。

問８　プラハの春とユーゴ内戦を答える空欄補充の組み合わせ問題。基本的な知識を問う問題である。

⑵　「世界史Ｂ」について

今年度の共通テストは，前年の共通テストと比べて分量に大きな変化はなかった。大問数と小問数および配点は，大問１が小問数９で配点27点，大問２が小問数５で配点15点，大問３が小問数８で配点24点，大問４が小問数６で配点17点，大問５が小問数６で配点17点であった。また，「世界史Ａ」との共通問題はなかった。

出題を正解の選択肢をもとに判断し時代別に見ると，中世に関する出題が８問，近世に関する出題が３問，近代に関する出題が14問，現代に関する出題が４問，複数にまたがる出題が５問であった。

地域別に見ると，アジア（東アジア・内陸アジア・南アジア・東南アジア・西アジア）アフリカに関する出題が16問，ヨーロッパ（西ヨーロッパ・東ヨーロッパ・ロシア）に関する出題が11問，オセアニア・中南米に関する出題が４問，複数にまたがる出題が３問であった。

出題形式で見ると，肢文の中から正文を選ぶものが19問（誤文を選ぶ出題はなかった），複数事項の組み合わせを選ぶものが12問，地図に関するものが３問であり，年代の配列やグラフの読み取りなどの出題はなかった。すべての大問で史料文，地図，表，文献や図版などの資料が提示されていた。共通テスト問題作成方針にも明示されている，「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定としては，昨年度の出題のように博物館での会話や観光ガイドとの会話などに見られる様々な場面ではなく，授業の場面を設定した会話の出題であった。これは，高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指した，学習の過程を意識した問題の場面設定であると考えられる。

共通テスト問題作成方針を踏まえ，特に出題教科・科目の問題作成の方針における「⑵地理歴史」（「世界史Ａ」，「世界史Ｂ」，「日本史Ａ」，「日本史Ｂ」，以下「⑵地理歴史」とする）に明示されているように，歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視し，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を図るために，①歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視された問題であるか，②用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する問題であるか，③教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題であるかどうか，④仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題であるかどうか，⑤歴史の展開を考察したり，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題であるかどうか，といった観点から具体的に検討する。

第１問　「世界史上の学者や知識人」

Ａは，シーボルトとその著書『日本』の文章をもとにした出題。

問１　科学技術に関する中国における成果についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問２　空欄アに入る都市名を東南アジアにおけるオランダの拠点であるバタヴィアであると判断させ，その位置を地図から選択させる問題で，基本的な知識と空間的な把握を問う問題である。

問３　中国と朝鮮との関係の歴史についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問

う問題である。

Ｂは，イランの学者ハサン＝ブン＝イーサーの伝記記事をもとにした出題。

問４　空欄イと空欄ウに入る語句を資料から読み取り選択させる問題。出題教科・科目の問題作成の方針における「⑵地理歴史」に明示されている，教科書等で扱われていない初見の資料ではあるが，資料の内容と授業で学んだ知識を関連付けて解答させる出題であり，高校での学習内容を踏まえた標準的な知識を問う問題である。

問５　イランにおけるキリスト教の歴史についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

問６　アッバース朝の下で起こった出来事についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

Ｃは，近代中国の学者である王国維が著した論文の一部の引用をもとにした出題。

問７　資料中の空欄エに入る民族を資料から読み取らせ，その民族について述べた文の正文を選択させる問題。空欄エの直前に契丹，次の行に『遼史』『金史』と記されているところから，女真族が入ると判断させ，その正文を選択させる標準的な知識を問う問題である。

問８　チベット仏教の歴史についての正文選択問題で，標準的な知識を問う問題である。

問９　ある民族や集団についての歴史研究の際に，別の民族や集団が残した記録を史料とする例として，肢文が当てはまるか当てはまらないかを判断させる問題。問われている内容を正確に把握し，肢文が当てはまるか否かを判断する思考力が問われており，昨年度の共通テストには見られなかった形式である。「⑵地理歴史」に明示されている，歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視された出題であり，高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した良問である。

第２問　「ある出来事の当事者の発言や観察者による記録」

Ａは，ウィンストン＝チャーチルの『偉大な同時代人たち』の一部をもとにした出題。

問１　資料中の空欄アと空欄イに入れる国の組み合わせ問題。資料中の文章の内容を正確に読み取らせ，それぞれの空欄に入る国を判断させる問題である。標準的な知識を問う問題である。

問２　資料中の「スペイン最後の植民地」に含まれる地域を地図から選択させる問題。具体的な地名を示さず，資料からその地名を判断させる問題である。「⑵地理歴史」に明示されている，用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察させたうえで基本的な知識と空間的な把握を問う良問である。

Ｂは，アメリカ大統領ケネディの演説の引用をもとにした出題。

問３　空欄ウに入る国をＢの文章や資料から判断し，その国の歴史についての正文を選択させる２段階の思考が必要な出題である。標準的な知識を問う問題である。

問４　問３と同様に空欄ウに入る国を判断した上で，キューバ危機の翌年に締結された条約とその交渉国の組み合わせを答える問題。標準的な知識を問う問題である。

問５　ソ連の歴史についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

第３問　「世界史上の人々の交流や社会の変化」

Ａは，「明治期の政治小説に描かれた国際情勢」についての授業の場面の出題。

問１　空欄アの時期に起こった出来事についての正文を選択させる問題。標準的な知識を問う問題である。

問２　空欄イの人物について述べた文とその人物が主導した民族運動を鎮圧した国との組み合わせを選択させる問題。標準的な知識を問う問題である。

問３　空欄ウに入れる条約名と，空欄エに入れる語句との組み合わせの問題。歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視されている。標準的な知識を問う問題である。

Ｂは，「世界人口の推移」についての授業の場面の出題。

問４　世界の人口の推移の表から，各地域の動きについての正文を選択させる問題。肢文自体が誤文である場合と，表から肢文の内容が読み取れない場合とあり，世界史に関する基本的な知識と表の読み取る力の両方が問われている。「⑵地理歴史」に明示されている，教科書等で扱われていない初見の資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題であり，標準的な知識を問う問題である。

問５　文章から読み取れる事柄を，表を参考にして判断させ，日本と東南アジアとの関係の歴史についての正文を選択し組み合わせて解答させる問題。日本の面積が現在と1850年とでそれほど大きな変化はないことを類推して人口密度の高低を判断させるため，やや難しい内容の出題であった。一方で 「⑵地理歴史」に明示されている，用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について総合的に考察させる良問であり，高校での学習を踏まえたうえで　出題の意図に合致した標準的な知識を問う問題である。

Ｃは，「オセアニアの先住民」についての授業の場面の出題。

問６　会話文の内容から空欄オと空欄カに入れる語句の組み合わせを選択させる問題で，基本的な知識を問う問題である。

問７　授業の内容を踏まえて生徒たちがまとめたメモの正誤を判定させる問題。会話文の内容とメモの整合性が問われた。「⑵地理歴史」に明示されている，用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察することを意図した問題と思われるが，高校での学習を踏まえずともリード文とメモを読み込めば解答できてしまう。

問８　オセアニアの歴史についての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

第４問　「歴史評価の多様性」

Ａは，昨年の共通テストに引き続きジョージ＝オーウェルの著書が題材とされた。ジョージ＝オーウェルが従軍したスペイン内戦のさなかに出版された書物の引用をもとにした問題。

問１　日本あるいは日本軍が関わった出来事についての正文を選択させる問題。「⑵地理歴史」に明示されている，歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視され，標準的な知識を問う問題である。

問２　ヒトラーが「虐殺」しようとした「あらゆる党派の政敵」と表現された組織と，イタリアのエチオピア侵略の組み合わせを選択させる問題。標準的な知識を問う問題である。

問３　ファシズムの意味を前提に，ファシズム体制と見なせる根拠と見なせない根拠を選ばせるという，歴史的事象の相互の関連性を考察する力が問われた。「⑵地理歴史」に明示されている，歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程が重視され，かつ仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題であり，高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した良問である。

Ｂは，ロシアの君主イヴァン４世とその皇子とを題材にした絵画をもとにした会話文。

問４　会話文の内容から空欄アに入る人物を判断させ，その治世にロシアで起こった出来事についての正文を選択させる問題であり，標準的な知識を問う問題である。

問５　問４同様に会話文の内容から空欄イに入る人物を判断させ，その人物が徴税のために始めた政策と，税制の歴史について述べた文の組み合わせを選択させる問題。イギリス政府による印紙法の撤回の有無を問うことは，共通テスト問題作成方針の「第２　出題教科・科目の出題方法，問題作成のねらい，範囲・内容等」に記載されている「高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とし」から判断するとやや難しいと言えるが，その他の肢文から判断して，問題全体としては高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した標準的な知識を問う問題である。

問６　1939年から41年までソ連でドイツ関連の映画が上映禁止となったことに関して，推測される仮説を選ばせる問題。仮説を立て，資料に基づいて根拠を示したり，検証したりする問題であり，高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した標準的な知識を問う問題である。

第５問　「世界史上の墓や廟」

Ａは，中世におけるフランス王の墓棺に関する文章をもとにした問題。

問１　空欄アに入る人物の業績についての正文を選択させる問題。標準的な知識を問う問題である。

問２　文章の内容と図を参考にして空欄イと空欄ウに入る人物の組み合わせを選択させる問題。「⑵地理歴史」に明示されている，用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について総合的に考察する問題であり，標準的な知識を問う問題である。

問３　空欄イに入る人物とルイ９世の治世に起こった出来事としての正文を選択させる問題で，標準的な知識を問う問題である。

Ｂは，関帝（関羽）像の写真と関帝廟に関する授業の場面の問題。

問４　中国人の移民についての正文を選択させる問題である。③の肢文では，清の禁令を犯して東南アジアに移り住んだのが福建・広東の人々であったことを問うているが，共通テストの作問方針の第２出題教科・科目の出題方法，問題作成のねらい，範囲・内容等に記載されている「高等学校学習指導要領解説及び高等学校で使用されている教科書を基礎とし」から判断すると「福建・広東の人々」ではなく，「福建・広東の人々の一部」とした方がより正確な表現となろう。一方で，問題としては高校での学習を踏まえたうえで出題の意図に合致した標準的な知識を問う問題である。

問５　会話文の内容から空欄エに新疆が入ることを想定し，その位置を地図から選択させる問題であり，基本的な知識と空間的な把握を問う問題である。

問６　会話文の内容から空欄オに入る王朝名と空欄カに入る文章を選択させる問題であり，標準的な知識を問う問題である。

３　総評・まとめ

⑴　「世界史Ａ」について

本年度の問題は，全体を通じて基本的な知識・理解をもとに正誤文の選択や空欄補充，地図や年表問題によって思考力を問うものであり，高等学校における学習内容から逸脱してはいない。ただし「世界史Ａ」の場合，教科書によって記述内容に特色があり，取り上げる事項についても

ばらつきがある。「世界史Ａ」の受験者は，専用の用語集や受験用参考書を購入しない場合が多く，教科書のみで学習を行うことになるだろう。例年，教科書によっては記述の無い内容からの出題も散見されたが，本年も一部それに該当する問題があった。「世界史Ａ」としての出題はあと2年となったが，各社の教科書を精査され，教科書によっては記載のない事項が解答に影響することがないようご配慮や工夫をお願いしたい。問題の配分については，近現代史を「世界史Ａ」の中心として位置付ける学習指導要領や高等学校における授業の時間配分を考慮するとおおむね合致した内容である。出題地域で見るとヨーロッパと東アジアからの出題が全体の３分の２以上を占めており，ややバランスに欠ける問題構成ではあるが，高校での学習活動を反映しているともいえる。問いの内容や出題形式については，問題作成方針にも「用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史的事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，総合的に考察する力を求める」とあるように，複数の資料から読み取った内容や知識をかけ合わせて総合的に考察することが求められる問題が多かった。例年の課題であったリード文や資料を見ずに設問文だけで答えが導き出せる出題については，今年度はおおよそ脱却できていると言える。また一部においては，歴史の学び方や現代的な諸課題を捉える上で必要なテーマ設定がなされている。今後も新科目「歴史総合」を見据えて，受験者が「歴史的思考」し，思考力・判断力を測定できる設問が継続されるよう期待したい。

⑵　「世界史Ｂ」について

出題構成や大問数，設問数，リード文におけるテーマ性の工夫や，歴史を学ぶ意義を考えさせるメッセージ性など，昨年度と同様の出題形式であった。また，学習指導要領に準拠し，その趣旨を反映した基礎学力を問うための出題であった。すべての大問で史資料の読解問題が出題された。令和7年度以降，共通テストでは『歴史総合，世界史探究』が出題科目となる。多様な資料，図版，図表，データ，場面設定などを組み合わせた出題方式を来年度以降も続けて欲しい。一方で，今年度は従来のセンター試験に見られた「基礎的な知識及び技能」のみで解答できる４択の選択問題も出題された。これは問題作成方針の第1問題作成の基本的な考え方に記載されている「平成21年告示高等学校学習指導要領（以下「高等学校学習指導要領」という）において作成することを目指す資質・能力を踏まえ，知識の理解の質を問う問題や，思考力，判断力，表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。」の部分から考えても，受験者の高等学校における学習活動や成果が評価されるべき共通テスト入試においては，思考力・判断力を図る設問も当然重要であるが，その前提となる知識を量る問題も重要であるためその出題は妥当である。問題の配分が学習指導要領や教科書の内容に沿っており，高校の現場における「世界史Ｂ」の授業における時間配分が十分配慮された出題であった。高等学校で学習した内容をしっかりと理解している受験生が正答できる良問が多く，全体を通じて，非常にバランスの取れた出題であったと考えられる問題作成にご尽力なされた方々に，感謝申し上げたい。

４　今後の共通テストへの要望

「世界史Ａ」「世界史Ｂ」としての出題はあと２年となった。３年後には新学習指導要領の下で「歴史総合，世界史探究」として出題されることになる。昨年度に公表された「歴史総合」の教科書をみると，「世界史Ａ」の教科書以上に記述内容の差が大きい。まだ公表されていない「世界史探究」の教科書の内容の精査を待たないと確たることは言えないが，「世界史Ａ」にみられたような，学んだ教科書によって有利・不利が生じるような作問は避けていただきたい。そのような意味においても，高校での学習内容とリード文の読み取りを組み合わせた問題が増えていることに期待を持っている。